

【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用してください。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意ください。

[成果情報名] 夏秋どり栽培に適する四季成り性いちご新品種「サマーティアラ(砂丘S6号)」

[要 約] 四季成り性いちご新品種「サマーティアラ(砂丘S6号)」は、果実が大きく、6~11月まで収穫が可能であり、夏秋どり栽培に適する。果形は円錐形、果皮色は鮮赤色で光沢があり、果実外観も良好である。糖度や糖酸比が高く、食味も良好である。

[部 署] 山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課・産地研究室

[連 絡 先] TEL 0234-91-1250

[成 果 区 分] 普

[キーワード] 四季成り性いちご、サマーティアラ、砂丘S6号、夏秋どり栽培

[背景・ねらい]

夏秋期のいちごは高単価(約1,500円/kg)で取引されており、特に品質の良い国産品に対する強いニーズがあるが、既存品種の多くは品質や収量性が劣ることから、実需者側の要望に十分に切れ切れていない。そこで、高単価な夏秋期に出荷可能で、果実品質に優れた四季成り性いちご新品種を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 平成14年に、「Selva(カリフォルニア大学デービス校育成)」を種子親に、「紅ほっぺ(静岡県農業試験場育成)」を花粉親として交配して育成した。
2. 草勢は強く、草姿は立性である。花房は連続的に出蕾し、かつ花房数は中程度であり、摘房処理が不要であるため省力的である。ランナー発生数は「エッチェス-138」より多く、増殖性が高い(表1)。
3. 6~11月の株当たりの可販果収量は410g程度(約260kg/a)であり、可販果の平均一果重は12.0と「エッチェス-138」より重く、果実は大い(表2、図1)。
4. 果形は円錐形、果皮色は鮮赤色で光沢がある。糖度や糖酸比が高く、食味が良好である。果実の硬度は「エッチェス-138」と同程度である(表1、表3)。
5. 実需者評価は、果実外観や食味が良好で、総合評価が高い(図2)。



写真 四季成り性いちご「サマーティアラ」の果実及び着果状況

[成果の活用面・留意点]

1. うどんこ病に罹病性であるため、適期防除に努める。

[具体的なデータ]

表1 四季成り性いちご「サマーティアラ」の特性 (平成20年度 庄内産地研)

品種名	草勢	草姿	花房数	ランナー数	果形	果皮色	光沢	果肉色
サマーティアラ	強	立性	中	中	円錐	鮮赤色	中	鮮紅色
エッチェス-138	中	開帳性	多	少	円錐	鮮赤色	中	淡紅色

表2 四季成り性いちご「サマーティアラ」の収量性 (平成20年度 庄内産地研)

品種名	可販果				平均1果重 (g)	可販果 ^x 数割合 (%)	小玉果 ^w (個/株)	外品果 ^v (個/株)
	秀品 ^z		優品 ^y					
	果数 (個/株)	重量 (g/株)	果数 (個/株)	重量 (g/株)				
サマーティアラ	28.9	340	5.7	73	12.0	45	11.3	31.4
エッチェス-138	27.0	304	3.5	44	11.4	51	7.4	21.4

^z 業務用出荷基準で区分 (外觀が良好で形状が円錐形の7g以上の果実)、^y 業務用出荷基準で区分 (外觀や形状が劣る7g以上の果実、軟質果・先づまり果は外品)
^x 収穫果数 (秀品、優品、小玉、外品) のうち可販果数 (秀品、優品) の占める割合、^w 5~7gの正常果、^v 5g以下の小果、変形果、不受果、着色不良果、病害果等

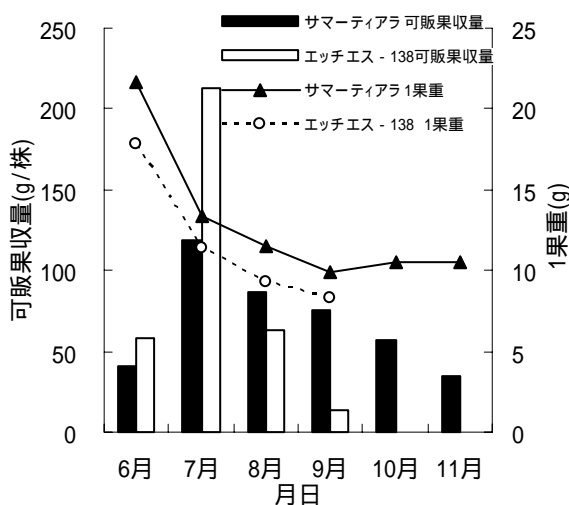


図1 四季成り性いちご「サマーティアラ」の時期別可販果収量と平均1果重 (平成20年度 庄内産地研)

表3 四季成り性いちご「サマーティアラ」の果実品質 (平成20年度 庄内産地研)

品種名	調査時期	糖度 ^z (Brix)	酸度 ^y (%)	糖酸比	硬度 ^x (g/3mm)
サマーティアラ	6月	7.8	0.63	12.3	-
	7月	8.3	0.64	13.0	356
	8月	9.3	0.80	11.7	399
	9月	8.7	0.84	10.4	477
	10月	9.5	0.86	11.0	483
エッチェス-138	11月	8.3	0.74	11.2	669
	6月	6.9	0.77	8.9	-
	7月	6.3	0.69	9.2	358
	8月	8.1	1.00	8.1	380
	9月	6.4	-	-	-

^z ATAGO PR-101で測定(3~4日毎2~4果調査)
^y 滴定酸度クエン酸換算値(月1~3回、2~4果調査)
^x レオメータ使用、3mm円柱形 60mm/s貫入応力(月1~3回、5~10果調査)
 -は未調査(「エッチェス-138」は10・11月未調査)

(参考 栽培概要等)

試験規模:1区10株 2反復
 定植:2008年4月18日
 高設栽培:「二槽ハンモック気化冷却ベンチ」、
 養液栽培(1液型給液装置を付帯)
 栽植距離:株間20cm、うね幅1.44m、2条千鳥植え
 給液管理:イチゴ専用肥料(13.5-10-20)を用い、生育に応じてEC0.6~0.8dS/m程度で管理した。栽培ベットから生ずる余剰水を受水槽に貯留し、約30日毎に排水した。
 芽数管理:芽数は最大で4芽、平均で3芽程度になるように管理した。
 花房管理:5月19日まで除去

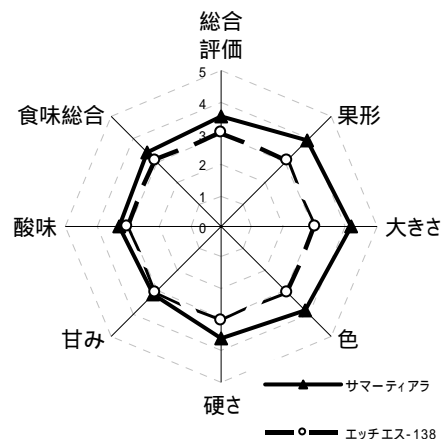


図2 実需者への求評結果

求評時期:平成19年10月31日、11月2日、実施方法:9~10割着色果実のサンプル提供によるアンケート調査(「エッチェス-138」を3として比較、5:優れる~3:同等~1:劣る)、対象者:庄内地域製菓菓子業製造担当者 21名

[その他]

研究課題名:いちごオリジナル新品種の開発、園芸作物奨励品種決定調査 予算区分:県単
 研究期間:平成20年度(平成20~24年度) 研究担当者:荘司善守、丸山康広、伊藤政憲
 発表論文等:品種登録出願公表(平成20年12月19日)、品種登録出願番号「第23046号」
 園芸学会平成21年度春季大会で発表